

筆を曲げない硬骨のジャーナリスト、政治小説もベストセラーとなる

す え ひ ろ て つ ち よ う

末広鉄腸

新聞記者・作家

一八四九年（嘉永二年）～
一八九六年（明治十九年）



政治小説「雪中梅」の挿絵。自由民権を唱え、明治時代には政治演説会がひんぱんに開かれた



ベストセラーになった政治小説の「雪中梅」

末広鉄腸（本名重恭）は嘉永2年（1849）、宇和島藩士の子として生まれた。藩校明倫館に入学した鉄腸は、17歳で藩校舎長、21歳で明倫館教授になるほどの秀才として知られ、22歳のときさらに勉学をしたいと宇和島を出た。帰郷後、鉄腸は神山県となった宇和島で役人になったものの、職を辞して再び上京。日本の五大新聞のひとつである曙新聞の主筆（編集長）となった。

明治8年（1875）、政府は高まる一方の自由民権運動を弾圧するため、過激な新聞・雑誌の発行を停止し、発行者や執筆者を投獄したり、罰金を課す法律を制定し、言論を弾圧した。それでも鉄腸は、いささかも論調を弱めなかったため、罰金と禁獄の判決を言い渡されたが、福沢諭吉ら多くの著名人が励まし、彼の名声はかえって高まった。

明治15年（1882）、激務に疲れた鉄腸は体調を崩し、病床生活を送った。その療養中、民衆の政治意識を高め、自由民権や政党政治を実現しようとしたのが日本初の政治小説で、特に『雪中梅』は30万部を売り上げる驚異的ベストセラーとなった。反骨のジャーナリストともいうべき鉄腸は、その後政界に転身したが、舌がんとなり、明治29年（1896）、現職の衆議院議員のまま48歳で永眠した。



末広鉄腸

国立国会図書館



『花間鶯』など、鉄腸の著作の数々